

道徳的行為に関する体験的な学習



道徳的行為に関する体験的な学習にはどのようなものがあるの？

児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技させる**役割演技**，動きやせりふのまねをさせる**動作化**，教材の内容を劇の形に変え，脚本にしたがって演技させる**劇化**などがあります。ここでは，役割演技を取り上げ，説明します。



▶ 役割演技の目的

児童生徒の演技の背景には，本人が自覚していない道徳的価値についての考えが隠れています。演技後に，演技の内容を振り返ることで，道徳的価値への理解を深めたり，新たな気づきを生んだりすることができます。

▶ 役割演技の留意点

- 児童生徒が自分の考えを表現できる人間関係や学級の雰囲気が必要です。
- 内容によっては（例：いじめに関すること等），演技させてよいかどうか，検討が必要です。

▶ 役割演技の前に

- ふざけない，からかわない，演技が上手いかどうかは学習には関係ないこと，登場人物の心情を理解するための学習であることを伝えます。
- 演技をする場面（いつ，どこで，だれが，どのようなことをしているのか等）を明確に示します。

役割演技を取り入れた学習の流れ

役割演技をする場面までの登場人物の心情や行動の根拠等を問う

「うそをついてしまった主人公は，どうして本当のことを言えなかったのでしょうか」 等

中心場面で役割演技をさせる（葛藤場面や，道徳的価値を実現するよさや難しさに気付かせることができる場面）

「うそをついてしまった主人公は，どのような気持ちで電話を掛けたのでしょうか。
主人公が友達に電話をした場面を演じてみましょう」

■ 役割演技をさせるときの組合せ

- ・ 全員に役割演技をさせる（隣同士のパア，3～4人グループ）
- ・ 代表者にのみ役割演技をさせる（代表の児童生徒同士，代表の児童生徒と教師）



演技後に演技の内容を振り返らせ，道徳的価値について考えさせる

※ 演技の背景にある道徳的価値についての考えを全体で共有し，理解を深めさせるために，演技後の話合いが重要である。

■ 教師→観衆役の児童生徒

「演技中，〇〇さんはどうして～と言ったと思いますか」
「2人の演技を見て，どのように思いましたか」 等

■ 教師→演じた児童生徒

「演じてみて，主人公はどのような気持ちで友達に電話を掛けたと思いますか」
「演技中，～と言ったのはどうしてですか」 等

※ 終末で，授業を通して大切だと思ったこと，今後の生活に生かしていきたいことなどを書かせる。

参考文献

[1]	赤堀博行：「特別の教科 道徳」で大切なこと	p184 - 200	東洋館出版社
[2]	道徳教育編集部：道徳教育 2019年 3月号	p13,15,51	明治図書
[3]	早川裕隆：体験的な学習「役割演技」でつくる道徳授業	p60 - 63	明治図書